

○提出者別タクソノミガイドライン（IFRS適用提出者用） 新旧対照表

第三版	第二版
<p>1. 提出者別タクソノミの概要</p> <p>本章では、提出者別タクソノミの概要について説明します。本書で扱うIFRSタクソノミは2012年版です。</p> <p>1-1 提出書類の全体像</p> <p>(略)</p> <p>IFRSタクソノミの版について</p> <p>IFRS 財務諸表の一部又は全部を詳細タグ付けする場合に次世代 EDINET タクソノミ (案) <u>第三版</u>とともに用いる IFRS タクソノミの版は、IFRS タクソノミ <u>2012</u> です。</p> <p>なお、IFRS の改正を取り込んだ版が <u>Interim Release</u> として、IFRS 財団の Web サイト (http://www.ifrs.org/XBRL/IFRS-Taxonomy/Pages/Interim-releases.aspx)にて提供されています。開示書類等提出者は必要に応じてこの <u>Interim Release</u> を使用することが可能です。Interim Release に関する情報は、当該 Web サイトを参照してください。</p> <p>1-2 EDINET タクソノミ利用時との主な相違点</p> <p>➡ 包括利益計算書について</p> <p>IFRS タクソノミでは、包括利益計算書の2計算書方式の場合の拡張リンクロールが用意されていますが、1計算書方式の場合の拡張リンクロールは用意されていません。このため、1計算書方式を利用する場合は、「<u>包括利益計算書：純損益の部</u>」(拡張リンクロール「<u>[310000] Statement of comprehensive income, profit or loss, by function of expense</u>」又は拡張リンクロール「<u>[320000] Statement of comprehensive income, profit or loss, by nature of expense</u>」)の表示リンク及び計算リンクに対して要素を追加する必要があります。表示リンク及び計算リンクの定義については、「6章 リンクベースファイルの作成 6-2 表示リンクの定義」及び「6章 リンクベースファイルの作成 6-4 計算リンクの定義」を参照してください。</p>	<p>1. 提出者別タクソノミの概要</p> <p>本章では、提出者別タクソノミの概要について説明します。本書で扱うIFRSタクソノミは2011年版です。</p> <p>1-1 提出書類の全体像</p> <p>(略)</p> <p>IFRSタクソノミの版について</p> <p>IFRS 財務諸表の一部又は全部を詳細タグ付けする場合に次世代 EDINET タクソノミ (案) <u>第二版</u>とともに用いる IFRS タクソノミの版は、IFRS タクソノミ <u>2011</u> です。</p> <p>なお、IFRS タクソノミでは <u>Interim Release</u> として、IFRS の改正を取り込んだ版が IFRS 財団の Web サイト (http://www.ifrs.org/Home.htm)上で提供されています。開示書類等提出者は必要に応じて <u>Interim Release</u> を含んだ IFRS タクソノミ 2011 を使用できます。通常、Interim Release は新たな基準に対応するものですが、2011年8月31日付けの <u>Interim Release 「Common practice concepts」</u> は、勘定科目の利用実績に基づく追加勘定科目のタクソノミです。「<u>Common practice concepts</u>」に関する情報は、http://www.ifrs.org/XBRL/IFRS+Taxonomy/Interim+releases.htm を参照してください。</p> <p>1-2 EDINET タクソノミ利用時との主な相違点</p> <p>➡ 包括利益計算書について</p> <p>IFRS タクソノミでは、包括利益計算書の2計算書方式の場合の拡張リンクロールが用意されていますが、1計算書方式の場合の拡張リンクロールは用意されていません。このため、1計算書方式を利用する場合は、<u>損益計算書の表示リンク及び計算リンク</u>に対して要素を追加する必要があります。表示リンク及び計算リンクの定義については、「6章 リンクベースファイルの作成 6-2 表示リンクの定義」及び「6章 リンクベースファイルの作成 6-4 計算リンクの定義」を参照してください。</p>

1-3 IFRS タクソノミ 2011 との主な相違点

IFRS タクソノミ 2012 と IFRS タクソノミ 2011 との主な相違点は、次のとおりです。

➡ IFRS の更新に伴う更新

2011 年中に公表された新基準及び基準改訂に対応した更新が行われています。

➡ Common-practice concepts の拡充

事例分析に基づき Common-practice concepts (実務慣行に基づく要素) が拡充されました。財務諸表本表に関して約 340 個、財務諸表注記事項に関して約 280 個の要素が追加されました。

➡ 株式オプションの開示に関するタクソノミ構造の改善

「ストック・オプションの数と加重平均行使価格の開示 [表]」(Disclosure of number and weighted average exercise prices of share options [table]) が非ディメンション構造に変更されました。

1-3 IFRS タクソノミ 2010 との主な相違点

IFRS タクソノミ 2011 と IFRS タクソノミ 2010 との主な相違点は、次のとおりです。

➡ テキストブロックのデータ型の変更

テキストブロックとして値を持つ要素のデータ型が「escapedItemType」から「textBlockItemType」に変更されています。

➡ ディメンション要素に係る相違点

特定の軸に対するデフォルトの二重設定を防ぐため、新しく拡張リンクロール「[990000] Axis - Defaults」を作成し、ディメンションのデフォルト要素が集約されました。「帳簿価額、償却及び減損累計額並びに償却累計額控除前の帳簿価額」ディメンションが追加されました。

➡ 連結財務諸表本表及び個別財務諸表本表の拡張リンクロール

連結財務諸表本表及び個別財務諸表本表の拡張リンクロールは、別々に存在していましたが、一つの拡張リンクロールに統合されました。

➡ タクソノミ構造の変更—deprecated フォルダの追加

タクソノミ構造に「deprecated フォルダ」が追加されました。このフォルダには、IFRS の改正により非推奨となった IFRS タクソノミ要素が格納されます。開示書類等提出者は、原則として利用しません。

➡ タクソノミ構造の変更—ps_mc フォルダの追加

タクソノミ構造に「ps_mc フォルダ」が追加され、このフォルダにはマネジメントコメントリに関連した情報が格納されます。開示書類等提出者が EDINET に開示書類等を提出する際に利用することは、想定されません。

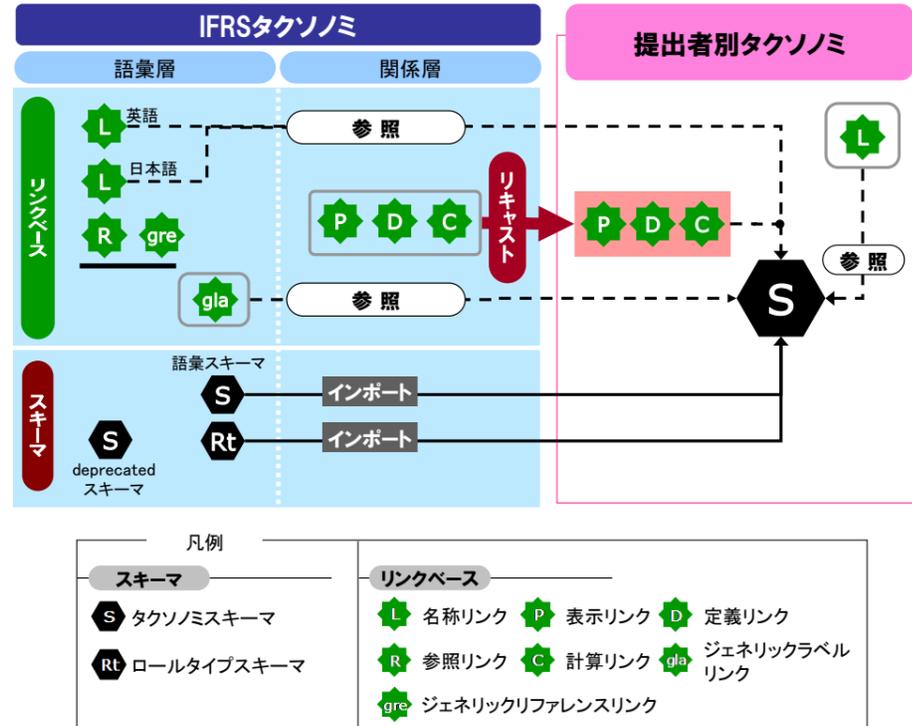
➡ タクソノミ構造の変更—その他

持分変動計算書のタクソノミ構造が変更され、要素を追加する方法が変更されました。また、Reconciliations of assets のタクソノミ構造も変更されています。

1-4 IFRS タクソノミを用いて提出する書類のタクソノミ構造

(略)

図表 1-4-1 タクソノミの構造



1-4-1 IFRS タクソノミについて

IFRS タクソノミの語彙スキーマは全体で一つ用意されています。また、ラベルファイルは言語別にそれぞれ一つ用意されています。

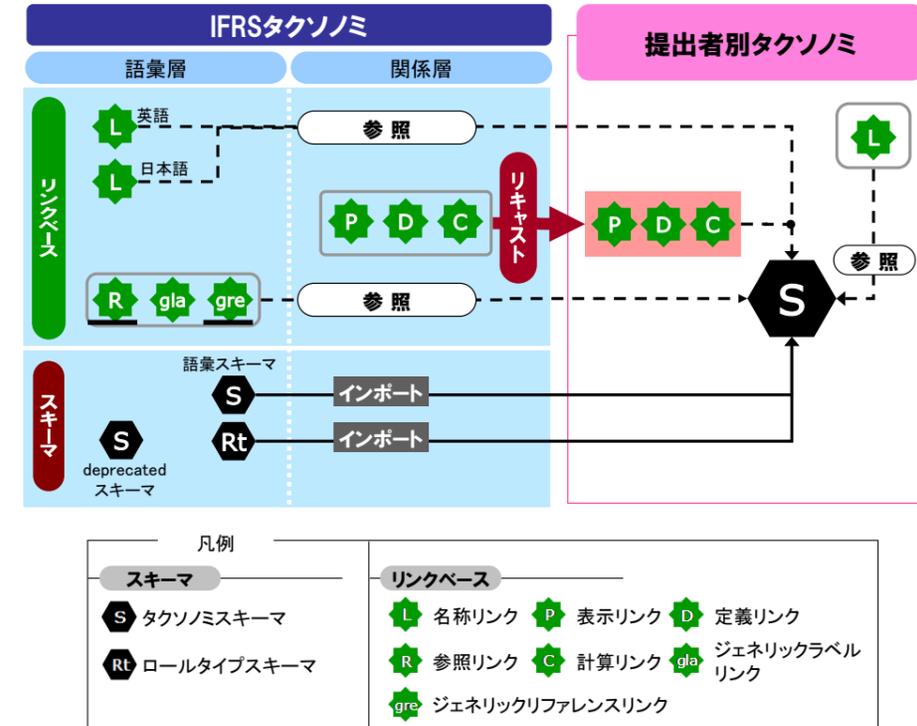
ジェネリックラベルリンクは、拡張リンクロールの言語別ラベルを定義したリンクベースです。ジェネリックリファレンスリンクは、拡張リンクロールの根拠となる IFRS の基準情報を定義したリンクベースです。

※開示書類等提出者は、ジェネリックラベルリンク及びジェネリックリファレンスリンクを定義しません。

1-4 IFRS タクソノミを用いて提出する書類のタクソノミ構造

(略)

図表 1-4-1 タクソノミの構造



1-4-1 IFRS タクソノミについて

IFRS タクソノミの語彙スキーマは全体で一つ用意されています。また、ラベルファイルは言語別にそれぞれ一つ用意されています。提出者別タクソノミで使用する表示リンク、計算リンク及び定義リンクは再構成 (リキャスト) し、必要な参照リンク、ジェネリックラベルリンク及びジェネリックリファレンスリンクを参照します。

ジェネリックラベルリンクは、拡張リンクロールに設定されるリンクベースの内容を表します。また、ジェネリックリファレンスリンクは、拡張リンクロールの根拠となる IFRS の基準情報を定義したファイルです。開示書類等提出者は、ジェネリックラベルリンク及びジェネリックリファレンスリンクを定義しません。

1-4-3 提出者別タクソノミについて

提出者別タクソノミは、スキーマファイル及びリンクベースファイルで構成されます。スキーマファイルでは、IFRS タクソノミをインポート又は参照し、追加する要素を定義します。また、提出者別タクソノミのリンクベースファイルを参照します。リンクベースファイルには、表示リンク、定義リンク、計算リンク及び名称リンク（日本語及び英語）があり、表示リンク、定義リンク及び計算リンクは、再構成（リキャスト）で作成するため、対象となる項目の親子関係全てを定義します。名称リンクは、名称の上書き又は追加した要素に対する設定を記載します。また、ジェネリックラベルリンクは必要に応じて参照します。

提出者別タクソノミの詳細は、「5章 スキーマファイルの作成」を参照してください。

4-4 IFRS タクソノミのインポート又は参照

提出者別タクソノミのスキーマファイルを作成した後、IFRS タクソノミの語彙スキーマをインポートします。

次に、「3章 提出者別タクソノミ作成前の準備 3-1 IFRS タクソノミのコンポーネントの選択」で選択したコンポーネントに対応するリンクベースファイルの URL を、linkbaseRef 要素の href 属性に指定します。その際、選択した拡張リンクロールに対応する表示リンク、定義リンク及び計算リンクは、再構成（リキャスト）で利用します。また、名称リンク（日本語及び英語）及びジェネリックラベルリンクは、参照します。参照する際には、絶対パスで参照先を指定します。

さらに、選択した拡張リンクロールに対応するロールタイプスキーマをインポートします。

1-4-3 提出者別タクソノミについて

提出者別タクソノミは、スキーマファイル及びリンクベースファイルで構成されます。スキーマファイルでは、IFRS タクソノミをインポート又は参照し、追加する要素を定義します。また、提出者別タクソノミのリンクベースファイルを参照します。リンクベースファイルには、表示リンク、定義リンク、計算リンク及び名称リンク（日本語及び英語）があり、表示リンク、定義リンク及び計算リンクは、再構成（リキャスト）で作成するため、対象となる項目の親子関係全てを定義します。名称リンクは、名称の上書き又は追加した要素に対する設定を記載します。提出者別タクソノミの詳細は、「5章 スキーマファイルの作成」を参照してください。

4-4 IFRS タクソノミのインポート又は参照

提出者別タクソノミのスキーマファイルを作成した後、IFRS タクソノミの語彙スキーマをインポートします。

次に、「3章 提出者別タクソノミ作成前の準備 3-1 IFRS タクソノミのコンポーネントの選択」で選択したコンポーネントに対応するリンクベースファイルの URL を、linkbaseRef 要素の href 属性に指定します。その際、選択した拡張リンクロールに対応する表示リンク、定義リンク及び計算リンクは、再構成（リキャスト）で利用します。また、名称リンク（日本語及び英語）、参照リンク、ジェネリックラベルリンク及びジェネリックリファレンスリンクは、全て参照します。参照する際には、絶対パスで参照先を指定します。

さらに、選択した拡張リンクロールに対応するロールタイプスキーマをインポートします。